

★実りの秋に思う命のリレー★

晩秋の時節、保護者の皆様はいかがお過ごしでしょうか。今日から11月、2学期も後半に差し掛かりました。7日（木）は立冬で、「冬が立つ」と書くように、冬の気配を感じ始める時期です。朝夕に漂う空気はきりっと冷たくなり、澄み渡る夜空には数えきれないほどの星々が輝きを放っています。天体観測もこれからが楽しみになります。



故郷の青森では、この季節になると「サケ」の遡上が始まります。「アキアジ」とも呼ばれるサケは、実家近くを流れる赤石川にも時を計ったように毎秋やってきました。小高い山の上にある小学校までの道中、橋の欄干に腹這いになり、川面に近づかんばかりに精一杯上体を伸ばしてサケの動向を観察したものです。浅瀬の川床に体を擦りながら長い距離を遡上するので、どのサケも満身創痍。子供心にも痛々しさが伝わってきました。サケは川で生まれ、稚魚へ成長すると海に出ます。そして、はるか北の海を回遊し、約4年後に自らが産まれた川で産卵し、7～10日ほどでその一生を終えるようです。



母なる川に戻ってくるまでに、サケたちは人知の及ばない環境でどのような暮らしをしていたのでしょうか。確かに言えることは、卵を産むことで命のバトンタッチをし、また、海の豊富な栄養を、川を伝って陸の奥まで運び上げるという大切な役割を果たしたという事実です。元来備わっている帰趨本能を頼りに長い旅路を回遊しながらたくましく成長し、命のリレーを営々と繋いできたサケたち。誰に認められずとも、自然の摂理に従って自分の役目を一途に行おうとする姿から、私は生命の清々しさ、行為の潔さを感じずにはられません。

話は変わりますが、先月10/17（木）～18（金）には中学部3年生が大阪方面（USJ・吉本新喜劇・大阪歴史博物館等）に、10/24（木）～25（金）には小学部6年生が姫路方面（姫路セントラルパーク、姫路科学館、青山スポーツガーデン等）に修学旅行に行きました。皆、アトラクションを存分に満喫し、お土産を携えて元気に帰校できました。次は、11/16（土）の学校祭。メインテーマは「創れ！最高のステージを！ 作れ！最高の思い出を！」です。演技ステージ練習や展示用の作品作りも佳境に入ってきました。当日は子供たちの取り組みに温かい声援や拍手喝采をよろしくお願いいたします。 文責：寺沢 光明